

CICADA

Vol.27, No.2

31 May 2021

日本セミの会々報 Transactions of the Japan Cicada Club

ニイニゼミ *P. kaempferi* 前翅白化個体♂ (対馬市上対馬町西泊, 17. VII. 2016)

対馬で発見されたニイニゼミ前翅白化個体

境 良朗

ニイニゼミ *Platypleura kaempferi* (FABRICIUS) は対馬(長崎県対馬市)では島内全域に広く生息し、6月下旬から9月にかけて鳴き声が聞かれる。

2016年7月中旬、本種の多産地の一つである対馬市上対馬町西泊・殿崎では発生の最盛期を迎え、鳴き声とともに多くの個体が見られたが、とあるハマビワ(クスノキ科)の地上1m程に一見して通常とは異なる淡色で白っぽい個体を発見し、撮影した。この件は境(2020—こがねむし No.85: 52)ですでに報告しているが、貴重なものなのでここに再録する。

本個体は前翅黒褐色部がほぼ全体的に白化した珍しいもので、前胸背も明るい黄緑色～淡緑色を呈し、中胸背のW字状紋は黄色がかっている。さらに、前翅の結節線より先の透明部は発達し、雲状紋が分離している。

本種の前翅基部には太い白色～灰白色の斜帯(一部半透明)があり、その他の雲状紋にも広く同色部が現れる個体を白紋型としている(林・税所 2015—改訂版 日本産セミ科図鑑 p.36)。本報告の白化個体はこれが顕著に発達したものと思われる。

[SAKAI Y: Pale-winged male of *Platypleura kaempferi* from Tsushima Is., Kyushu.]